

## ハワイ研修旅行記録

平 畑 政 幸

記念行事の中に「ハワイ旅行を」の話題が出はじめたのは、30周年記念の台湾旅行が終わったすぐ後であった。世界の植物が集ったところ、植物を勉強している者なら一度は行って観たいところ、というねらいで海外旅行経験豊かな当津理事長の構想が暖まってきた。

予想に反して参加者が少なかったのは一年前の日航機大惨事が無関係でないと思われる。

18人では、団体として少なからず無理があったが、程よい人数で動き易く、遠慮も気遣いもない、もっぱら珍らしく、また魅力的なブロッサムに引きつけられる毎日であった。

日程表・参加者の紀行文と重複しないよう全体をまとめよう。

台湾旅行参加者が7人、生花師範の3人グループ。同窓生で誘い合せた3人グループの女性群および内波先生夫妻、その他全体が落ち着いた学術的なムードをかもし出すことになりこの旅行の大成功のもとになったといえる。

王子動物園の亀井先生には重いビデオ撮影機で動物園のみでなく旅の要所をスナップしてもらって、楽しかっ

た旅の思い出を自分達の生なましい動きで再現してもらえる貴重な記録となっている。

また橋本光政先生にリストアップしてもらった「見て来たいトロピカル・トリー」を広川書店の熱帯植物集成で調べておいたが、現地での実際に眼にする花の色その印象的な鮮やかさは眼底に焼きつけられ消えることがないように思える。ハワイの植物について別に報告が出ることを望んでいる。

エンジントラブルではアナウンスがある毎に待ち時間が長くなり、今離陸しないと今夜大阪に着けないとか、29日予定の仕事変更電話の心配など不安が多かったが、安全に帰れるなら待ってもよいとか皆さんと一緒に耐えられるなど雑談のはなをさせながらも時間の空費には腹立たしくもあった。指定されたホテルは一段と格が下がったが一部の方は勉強会で亀井先生の動物の話、笠原先生のお話で有意義な時を過した。

全員が極めて健康で気持ちのよい旅が終わり、もう一度一緒に植物観察の旅に誘ってくださいと声をかけあいながら旅を終った。



風の丘 (ヌアヌ・バリ) 1986.8.25

ハワイ研修旅行日程表

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	摘要・宿泊地・その他
1	8/23 (土)	(集合) 大阪	16:30 18:00 18:30 18:50	NW16 (747)	大阪空港・国際線出発ロビーで結団式 ノース・ウエスト16便ホノルル行に搭乗 滑走はじめ 離陸 30分後薄暗くなる 夕食機内 機内泊
		ホノルル  マウイ島	5:45 7:30  9:25 10:05  14:00	ハワイ航空  貸切バス	日付変更線通過 時差19時間 時計を5時間すすめる 日の出らしい ホノルル国際空港着陸 列植されたゴクラクチョウカ、ヤシ類が眼に入る ホノルル空港発 マウイ島カルファイ空港着 イアオ溪谷 ハワイで一番雨の多い所 ケネディの顔など奇 岩あり カナバリ・ビーチホテル着 ブルメリア、カシワバゴムなどの花が芝生の緑によく映える 砂浜散策 早速海に入る者あり
2	8/24 (日)	マウイ島	7:00 9:00  14:00 18:00	貸切バス	モーニング・コール マウイ島研修 カナバリ→ラハイナ→カルファイを経てハレアカラ国立公園・ 衛生管理事務所でギンケンソウを見る一火口見学(3055m)・ 集合写真→クラ植物園、六甲高山植物園ぐらいの大きさ プ ロテアの種類が多い、生垣にコマチダケが茂っていて室井先 生感激する カナバリ・ビーチホテル着 40周年記念夕食会
3	8/25 (月)	マウイ島	7:00 7:30 8:30 9:30 10:10	貸切バス ハワイ航空	モーニング・コール 手荷物出し 朝食 カルファイ空港へ カルファイ発 ホノルル着
		ホノルル	15:00	貸切バス	ホノルル市内観光 スヌア・パリ(風の丘)で集合写真→パン チボウル・太平洋国立記念墓地・展望台→免税店で買物 日 本人客多数 ヒルトン・ハワイアン・ビレッジ着 ワイキキ免税店で買物 市内で夕食 市バスでホテルへ
4	8/26 (火)	ホノルル	7:00 9:00 16:45	貸切バス	モーニング・コール ワイキキ水族館→ホノルル動物園→フォースター植物園・記念 写真 サンセットクルーズ(船に乗って日没を見ながら夕食 ポリネ シアショーを満喫 ダイヤモンドヘッド ワイキキのホテル 街が美しい)
5	8/27 (水)	ホノルル	6:00 7:30 9:30 11:20 12:00 12:30 13:30  17:30 20:00 ~22:00	貸切バス NW15  バス	モーニング・コール 手荷物出し 朝食 ホノルル空港 買物 機内に入る 滑走路に出る エンジンのパワーアップ 離陸寸前ストップ エンジン不調のためゲートに帰る 1人9ドルで昼食が出る 大阪着の時間が気になる プラザホテルに入る 夕食 ホテルで研修会 亀井先生・笠原先生の話聞く

6	8/28 (木)	ホノルル	4:30 5:30 9:20 9:28 9:45	バス	モーニング・コール 再びホノルル国際空港へ 7:30発の予定が再び遅れる 前日と同じ飛行機に搭乗 動きはじめる パワーアップ 離陸 期せずして拍手がわく 機長より安全航行する安心して休息するようアナウンスがある 日付変更線
7	8/29 (金)	大阪着	11:30 12:00 12:07		日本の島が見えはじめる 奈良方面がよく見える 大阪国際空港着陸 荷物を受取り解散
	9/20 (土)	王子 動物園	14:00 16:30		写真交換会 ビデオを観て思い出を語る会

## ハワイに降りて

当 津 隆

室井博士を団長として伊丹を飛びたつたのは8月23日の午後6時40分であった。ホノルルについたのは23日朝7時30分である。いうまでもなく日付変更線のいたずらである。

ハワイらしくない蒸し暑い日であった。ハワイにも残暑があるのかといささか期待はずれだが、さすがに植物の豊かさには驚くばかりである。種類の多さにもまして珍らしいブロッサムのオンパレードにカメラの放列が続く。

一行18名の眼とレンズは次つぎにあらわれるトロピカルプラントに魅せられる。

まず一番はプルメリア、白、桃、赤などから流れてくるハワイの香り、オレンジ色の花はアフリカチューリップ・ツリー、ハイビスカス、ブーゲンビリアは日本でもおなじみの花だがスケールが違う。ストレッチア、ゴールドデンシャワー、ホワイトシャワー、レインボーシャワーのみごとな花ざかりに見ほれてしばしたずむ。マカデミアンナツの木、ジュースにするグッバ、に昼食の楽しみを思い浮かべながら観光バスはいく。日本語の達者な二世の日本への郷愁を聞いた。サトウキビ畑に一世の苦勞振りがしのばれ、眼がしらが熱くなる。

サトウキビに灌水する工夫、収穫までに1年8か月、葉を焼きはらってから収穫、パイナップルやマカデミアンナツにとつかわられつつある。時代の流れか。

モンキー・ホットの街路樹の向こうは紺碧の海、白浪に乗って遊ぶ子供達は平和そのものである。その昔、パールハーバー爆撃にはじまった太平洋戦争は夢のまた夢。一瞬、武装解除されたころの当津上等兵がオーバーラップしてきた。パイナップル畑が見えた。22~27℃が適温、水やりの工夫、1年8か月で一番成り、3番成りで植えなおす。年に一度の鹿がりでパイナップルをまつる話で

第1日目の研修を終えてハワイの夜を迎えた。星空が美しい。11年前にも見たベガを見た。

## ハワイ旅行印象記

室 井 緯

われわれ生物学会の一行は、8月23日から28日までハワイに旅した。

ハワイは日本人が20パーセントも住みつき、州長も日本人のジョージ有吉、四囲の植物をみてもゲンノショウコ、トウチク、コマチダケ、オカメザサ、カキなど日本人が移住時に持参した植物がよく育っている。

どこの国の人にも、「いざ鎌倉」にそなえて、民間業としてゲンノショウコ、生活に親しんだカキ、笹原料のタケなどを持参したものである。したがってハワイの平地には、各国移民団によって、資源植物を持参していることは、おもしろいことである。日本人のほか、中国人、フィリピン人、インド人、スマトラ人、アメリカ人などの持参した植物が植えてあるのである。

まず、気がついたことはサトウキビ畑である。先年、ペルーからブラジルに旅したときも、英国の産業スパイによって、ゴムとコーヒーの種を盗まれ、マレー群島はじめ熱帯アジアに主産地が移動し、広大な平地のゴム畑などはゴムの枯れ木に雑草が生え、その雑草が3m以上も伸びているのを見ると、もう40~50年前のゴム、コーヒー熱の盛んなときを思い浮かべ、産業スパイの恐ろしさに目を白黒としたことであった。

なお、商店街も歩いてみた。一番目についたのは、竹細工で、発展途上国の特惠品の特売品ばかりで、日本の竹細工は高価なためであろうか、一つもみる事ができなかった。ところが自動車を見ると、ほとんど日本製ばかりで心強く感じた。

サトウキビ盛衰記

マウイ島で広大なサトウキビ畑を見た瞬間、サトウキ

ビ盗難事件を思い出した。終戦後、琉球の農業高校の高校生はハワイなどへ夏期留学にやってきた。一つはアメリカの農業事情を調査することと、英会話の実習にやってきたのである。そして農場経営と作物の栽培に努力したのは当然であるが、そのサトウキビのすばらしい甘さと成長の早さに驚いたことはいうまでもない。

高校生某は、細葉性のサトウキビを舐めてうっとりした。こんな甘い糖度の高いものを栽培すると、どれほど沖縄農民の生活を楽しくするであろうか、と真剣に考えた。

当時、政府の方針として、ハワイ島の農業を保護するためにサトウキビの苗の放出は禁止されていた。

いざ帰国ということになって、高校生某は考えた。そして秘密裏に靴先きにキビの節を一つずつこっそりと入れて飛行機で帰途についた。琉球につくや否や、旅の疲れもものは、その節を畑に植えた。そのキビは、2本とも活着し、すくすく成長した。せっせと育成したキビ苗はどんどん成長して、大きくなり、その次の年はすべてを苗作りにした。3年目には沖縄全島のサトウキビを糖分の高い細葉のものに一変してしまった。

キビの糖度の多いということは、砂糖の収穫をあげたために砂糖の単価を大きく下げた。そして琉球のサトウキビ天国をつくりあげた。その高校生の功績は大きいものがあつた。ハワイ当局の処罰は証拠のないものに対しては無論、何等の処置も行われることはなかった。いわゆる無罪放免である。

沖縄の産業を一変させたことを目のあたりに見た琉球のサトウキビ栽培者は、その高校生の功績をたたえて記念碑を建立する計画をたてたが、教育委員会、その他からたとえ産業改革の大貢献者であろうと、窃盗という誤った手段に対して記念碑を建てることは許されないと大反対をやったので、記念碑の案は宙づりになってしまい、実現するにはいたらなかった。

いま、目のあたりにマウイ島のサトウキビをみると、まさに斜陽で、いまは観光農作物と変わり、〇〇糖業会社の看板、キビ運びの列車、半ばなげやりにしてしまっているキビ畑と、多人数の労働者が赤字続きの経営の中に残されている。その一部はバイン・アップル畑へ転作をされているものもある。そのバイン・アップルも沖縄、台湾のバインアップルの品種改良によって戦後のような夢は破れてしまったものである。

## ハワイ探訪記

足立恭子

海外旅行ブームによって草木のなびく様に誰もがハワイに出かける昨今、「別にハワイに行かなくても国内に

も行く処は沢山ある」とかねがね思っていた。そのハワイ島へ草木に誘われて出発した。

ホノルル空港に足を下した時からすっかりハワイの虜になってしまったのである。目に入って来る植物、木立どれも色彩豊かに美しくのびやかに育っている。

自由に入出入り出来そうな植物園は、広い敷地に巨大な樹木、絵で見たり、名を聞いただけの植物、はじめて見る草木を目の前にしてすっかり夢中になってしまった。カメラのシャッターを押しつづける。昼間咲いていなかったソーセージツリーの花を夜になって偶然見つけた時は歓喜した。

早朝、マイナーが<sup>から</sup>瞬にしているカシワバゴムの木を離れるさえずりで目をさます。窓からそと庭を見おろすと、スプリンクラーが忙がしそくに廻っている。樹木を大切に育てているのがよくわかる。日本のホテルでは見かけなかった光景である。

いけ花を通して日本の植物と比較してみると、種類の豊かさ、形態、色彩的に魅力のある植物が余りに多いのに驚く。「ハワイに来て良かった」と思う。

行くさき先で竹が植えてあり、日常生活に竹は重要な植物であることがわかる。ガイドの流暢な日本語の名調子に移民の苦勞をしのぶことが出来る。

各専門の先生方どこへ行っても質問しながら教えて頂くぜい沢な旅だった。飛行機のトラブルで帰国が1日伸びた夜まで講義をして頂き、このたびの旅行にお誘い下さった先生方に感謝致します。

いよいよ出発の日、早朝から空港待合室でいつ搭乘出来るかわからないでいる時、暗い空気を吹き消す様にさわやかな笛の音が流れはじめた。傍におられたご婦人が背を向けて立ち、奏でる曲は「コンドルは飛んで行く」。聞きなれた曲が続く……勇敢にも機転の効く方である。何処の立派な演奏会で聞くよりも美しい音色に聞こえる。曲が終るといっせいに拍手である。その笛の紋様の珍らしさにお聞きすると「ケーナ」と言うペルーの民族楽器で、アシで作られているとの答であったが、室井先生のお話してペルーの竹で作られている事がわかった。笛の持主もよろこばれたが私達も思わぬ所で勉強させて頂き感激のひとつきをすぞす。

室井先生は、やはり世界の竹博士、偉大な先生であることを再認識する。無事帰国後、すぐ翌日から又、もう一度ハワイに連れて行って頂きたいと念じている次第です。

## ホノルル動物園をみて

お 話 亀井一成先生  
ま と め 浅井恵子

ひとの集落は気候に関係が深い。動物も同じで例えばクジャクの羽毛替えも冬だ。日本もハワイも同じようだ。日照時間の影響なのかクジャクもキジも尾羽が抜けていた。羽が生え揃った正月ごろ産卵をする。

○ 緑陰

直射日光を遮ぎる装置がないのは樹木の多いためである。日本では熱い国の動物にはシェードは不要という発想があったが、今ではシェードの設備も作るようになっている。日本では樹木で日陰をつくっても動物達に食べられるからだめだが、樹木の成長が早いハワイなればこそといえる。

○ けものみち

芝生が枯れているのが動物たちの歩いた道である。その道にさからわない工夫がされていたのはみごとだ。つまり人どめ柵の設計の問題である。

○ ゴリラの話

自分の体色に近い場所が安全なのはわかりきったことだが、王子動物園では入園者にみせるためにゴリラがいつも休む黒い扉を白ペンキで塗ったところ、彼らは精神不安におちいり、安全な座る場所を求めてうろうろした。動物園経営のむづかしい問題である。

○ アメリカの身勝手か

ライオンタマリー（南米産）密輸入問題で返還させられたライオンタマリーが、ホノルルにいた。事情を調べる必要がある。

○ アラカルト

- ・ゾウの貧乏ゆすりか、冬ははげしく夏はゆったりしている話
- ・ペンギン17種のそれぞれの習性の違いやアオカビに弱い話
- ・クマの智慧の話
- ・チンパンジーを育てた話
- ・パンダやイヌのテリトリーの話
- ・動物達が地震に弱い話
- ・ひとと動物との愛情物語
- ・ペットを飼うひと達の心掛さまざま
- ・ホノルル動物園を経営するひと達の考え方
- ・見物する子ども達のマナーのよさ、ひろびろとしたお弁当広場へのあこがれなど、とりまぜながらの楽しい「一成ぶし」に堪能した。

## ハワイ旅行に参加して

大場 義 憲

10年前の台湾旅行に比べると参加人数では少なかったが、是非参加したいという強いご希望の方がたばかりだった。それに室井先生をはじめ全員が楽しく旅行を終え

たことは大変喜しく思います。

ハワイは、さすがに世界有数の植物の豊庫といわれるだけあり、めずらしい植物が多くみられた。私は植物の名前がわからずただ写真を撮影するのみであったが、後刻ゆっくりとスライド映写で楽しみたいと思っています。

室井先生、笠原先生、亀井先生、当津先生ほか諸先生方から有益なお話を賜わりありがとうございます。是非もう一度ゆっくりとハワイを再訪したいと思っています。

## 生物学会のハワイ旅行に参加して

藤 田 義 隆

ハワイに限らず、世界のどこの国の人びとも新しい文化を創造し精一杯生活しています。植物も環境に適応し美しい花を咲かせているし、動物は私達に身近によってきて愛嬌をふりまいてくれます。私は海外旅行ははじめてで何もかもが不安でしたが、幸にも講師諸先生やガイドさんに恵まれ、沢山勉強ができ、また多くの楽しい思い出ができましたことを感謝すると共に、兵庫県生物学会の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

有 元 惇

このたびの旅行は、私の人生において意義の深いものでした。

出発を前にして、仕事で足を骨折し、旅行を懸念いたしました。なんとか同行できましたことを喜んでおります。

今回の研修旅行で一番印象が深かったのは、「ハレアカラ火山」9000フィートに自生する銀剣草の造型美と植物分布のふしぎさでした。

諸先生方のご高説を伺いながらの旅行は、非常に楽しいひとときでした。特に熱帯の赤い太陽の沈む「サンセットクルーズ」は楽しい思い出です。

同行していただいた、交通公社の田中さんに敬意と感謝を表します。

岡 田 愛 子

生物学会の記念旅行に旧友（彼女達にとって私は悪友なのです）3人で参加させていただきました。室井先生ほか諸先生から数かずのすばらしいお話を聞かせていただき、本当に充実した研修旅行ができましたことを感謝しています。プルメリアの甘い香り、紺青の海、夜の海

岸でみた白鳥座、ベガ、アルタイル、の美しさ、サンセットのすばらしさ、など忘れられません。子育て真最中の娘、曰く「学生時代の友人と子育て完了のいま海外旅行に出られるなんて最高よ。うらやましいわ」と。本当にそう思います。この幸福に感謝しながら、明日に向かって新しい気持で生きて行きたいと思っています。

北村 健

ハワイの自然も素晴らしかったが、それにもまして、いろいろな人との出会いが収穫であった。中でも誰よりも早く動物達のところへかけつけられるように動物園の近くに住んでいるという亀井先生の動物とのつき合い方、また、どんなことでも疑問を感じれば、誰にでも質問し、熱心にメモをとられる室井先生の姿などは、とてもよい刺激になりました。

足羽 房江

遠くから参加させていただき、数かずのご厚意により本当に楽しい時をもつことができました。夕映えと共にお別れの時が近づくのが名残り惜しい思いで一杯でした。

10年後またお出逢いができますよう健康でいたいと願っております。

下川 陽子

思いがけないご縁で普通ならお会い出来ない立派な先生方から親しくご指導を頂いて本当に有難うございました。ハワイの動植物の勉強だけでなく、私のこれからの人生の刺激剤を頂戴して感謝しております。

## ハワイでの詩五首

最所 潤

サトウキビパインの大地はろぼろと

そよぐ風も緑となりき

(マウイ島の車窓より)

いにしへのマウイの白檀今いずこ

水都蘇州の香ぞ思う

(マウイ島はその昔白檀の木が沢山あったそうです)

蘇州は白檀の扇子で有名です)

ハワイアン流れる夜空に仰ぎ見る

相輝けりベガ・アルタイル

(織姫・彦星が印象的でした)

マウイ島コアラの親子いなくとも

気高く生きよユーカリの木

(コアラあつてのユーカリという風潮が強すぎますね)

ヤシの葉のなびく青空雲行くよ

我が故郷の思い残して

(ホノルル・ワイキキ・ヒルトンホテルの中庭で)

10年前の台湾、今日のハワイ、そして50年記念のツアーがありましたら是非参加したいと思っております。

## ハワイの花

前田 恵子

クロトンの葉は金色に照り映えて

ホテルの庭の朝は明るし

噴水のしぶきに濡れて散りしける

ブルメリアの花色濃くなりぬ

ジャカラランダうす紫の花房は

色なつかしく風にゆれつゝ

あでやかに夜の闇に咲く赤き花

実の名の如きソーセージの木

師の君の胸にかけたるレイの花

チュベローズの香夜に匂い立つ

南国の<sup>ひかり</sup>陽光に映えて咲きほこる

色とりどりのブーゲンビリア

丈高き女神の像をふり仰ぐ

レインボーシャワーの花傍らに

(墓地にて)

飛行士の墓にも供えし真紅なる

ハイビスカスはハワイの州花

(鬼塚飛行士の墓)

大砲の玉と見まごう珍らしき

キャノンボールの実をあかず見し

<sup>いばば</sup>家荷のアンスリュームにしばらくは

ハワイの旅をなつかしみ居り

## 参加者名簿

岡田 愛子	大場 義憲	当津 隆
下川 陽子	藤田 義隆	浅井 恵子
足羽 房江	亀井 一成	前田 恵子
内波 秀一	室井 綽	足立 恭子
内波 典子	有元 惇	田中 尚孝
最所 潤	平畑 政幸	
北村 健	笠原基知治	